

京都大学構内遺跡調査研究年報

2020年度

2022

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

巻首図版



和歌山県白浜町 フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内 瀬戸遺跡
調査風景（B区・南から）

京都大学構内遺跡調査研究年報

2020年度

2022

京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター

京大文化遺産調査活用部門

序

本年報は、文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センターの京大文化遺産調査活用部門がおこなった京都大学構内に残る遺跡の調査のうち、2020年度に整理の終了したものについて、その成果をまとめたものである。

第Ⅰ部で報告する和歌山県白浜町瀬戸遺跡は、本学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内に所在し、1965年の図書館建設に際し石棒が発見され遺跡の存在が明らかになったものである。その後、旧埋蔵文化財研究センター時代の5次にわたる調査で、縄文晩期の屈葬人骨や弥生前期の配石墓、古墳前期や奈良時代の製塩関連の遺構や遺物など重要な発見が相次いだ。2020年度の発掘は、1982年以来の本格的な調査となる。これまで希薄であった縄文後期後葉の資料がまとまって出土し、遺跡の時空間的な展開を復元するうえで重要な知見が加えられた。施設部や関連部局、白浜町教育委員会には、調査の実施にひとかたならぬご助力をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げたい。

第Ⅱ部の紀要には、京丹後市網野町の浜詰遺跡と北部構内に所在する北白川追分町遺跡から出土した縄文土器の付着炭化物について、AMSを用いた放射性炭素年代の測定、残存脂質分析による食材推定をおこなった論考を掲載している。多数の考古学・物理科学分野の研究者が協働し、過去の出土資料からあらたな情報を導き出す意欲的な試みである。蓄積の進んだ構内遺跡の調査資料について、これからもこのような試みを積極的に推進していく予定であり、ご批評とご意見を賜れば幸いである。

コロナ禍の中、部門では調査研究成果の発信にも継続して取り組んでいる。本学総合博物館と連携した特別展「文化財発掘」は、7回目となる「木を遺す、木を伝える－木製品の調査と保存－」を春季に開催した。昨年度報告した岡崎遺跡の調査成果を中心に、総合博物館所蔵資料とともに木製品の特質を紹介し、多数の方に参観いただいた。また、古道「白川道」研究プロジェクトも3年目を迎え、報告書作成と展示による成果の公開を予定している。今後もこうした部門の活動に、ご理解とご支援をお願いする次第である。

2022年2月

京都大学大学院文学研究科附属
文化遺産学・人文知連携センター長

吉井秀夫

例 言

- 1 本年報は、京都大学構内で2020年4月1日から2021年3月31日までに発掘、整理作業をおこなった埋蔵文化財調査と保存の報告、および京都大学大学院文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター京大文化遺産調査活用部門における研究成果をまとめたものである。
- 2 国土座標にしたがって一辺50mの方形の地区割りをして、遺跡の位置を表示した。
- 3 層位と遺構の位置については、世界測地系国土座標平面直角座標系（第Ⅵ系）により表示した。
- 4 遺構の略号は、奈良文化財研究所の方式にしたがって、井戸：SE、土坑：SKのように表示し、各調査ごとに通し番号を1から付した。
- 5 遺物には、遺跡の調査名を示すローマ数字と、調査ごとの通し番号を1から付した。この遺物番号は、本文、実測図、写真を通じて表示を統一した。
I：和歌山県瀬戸遺跡の第6次発掘調査
（例 I 1：和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査出土遺物1番）
- 6 原則として、遺物の実測図は縮尺1/4、遺物の写真は約1/2に統一した。他の縮尺のものは、それぞれに縮尺を明記した。
- 7 参考文献は、本文中に〔著者名 発表年〕の形式で表わし、巻末に一括した。
- 8 古代・中世土師器の型式分類は、とくにことわりがない場合、『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅱ』（1981年）にしたがっている。
- 9 本文の執筆者名は各章の初めに列記した。また、遺構・遺物の撮影は原則として、それぞれ報告者が担当した。
- 10 編集は、伊藤淳史が担当し、千葉豊、富井眞、笹川尚紀、内記理、磯谷敦子、柴垣理恵子、長尾玲、西田陽子が協力した。
- 11 2020年度の京大文化遺産調査活用部門内の組織は以下の通りである。
部 門 長：吉川 真司（文学研究科教授）
教 員：千葉 豊、伊藤 淳史、富井 眞、笹川 尚紀、内記 理
教務補佐員：磯谷 敦子、長尾 玲、柴垣 理恵子
事務補佐員：高山 典子

京都大学構内遺跡調査研究年報 2020年度

目 次

第 I 部 2020年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第 1 章 2020年度京都大学構内遺跡調査の概要	1
1 調査の経過	1
2 調査の成果	2
3 本部構内, 共同溝設置にともなう立合調査	3
4 世界測地系座標表示への移行について	5
第 2 章 和歌山県瀬戸遺跡の第 6 次発掘調査	7
1 調査の概要	7
2 各調査区の概要と層位	9
3 遺 物	17
4 小 結	24
参考文献	29
京都大学構内遺跡のおもな調査	32
報告書抄録	43

第Ⅱ部 京都大学大学院文学研究科附属
文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅲ

浜詰遺跡・北白川追分町遺跡出土土器付着物の自然科学分析

1 遺跡と分析対象土器の概要	47
2 分析試料と前処理	49
3 炭素精製およびグラファイト化	50
4 AMS測定結果	51
5 EA-IRMS測定結果	52
6 結果に関する考察	52
7 北白川追分町遺跡出土土器付着炭化物の脂質分析結果報告	55
8 ま と め	59

図 版	卷末
-----	----

図 版 目 次

巻首図版 和歌山県白浜町

フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所構内 瀬戸遺跡
調査風景（B区・南から）

図版 1 京都大学吉田キャンパスの地区割と調査地点

図版 2 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 瀬戸遺跡遠景（瀬戸臨海実験所構内を番所山山上より・西から）
- 2 A区調査風景（南西から）

図版 3 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 A区褐色砂上面検出状況（南から）
- 2 A区暗褐色砂ほりあげ状況（南から）
- 3 A区東壁調査風景（北から）
- 4 A区東壁貝粉混灰白色砂とちりめん縞状葉理構造（西から）

図版 4 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 B区表土除去後全景（南から）
- 2 B区調査風景（南西から）

図版 5 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 B区西半褐色砂除去後遠景（南から）
- 2 B区西半褐色砂除去後近景（南から）
- 3 B区南壁東端層位貝粉混灰白色砂確認状況

図版 6 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 C区表土除去作業状況（北から）
- 2 C区表土除去後全景（北から）

図版 7 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 C区褐色粗砂上面配石状配置確認状況（北から）
- 2 C区黄褐色砂掘り上げ後全景（北から）
- 3 奈良時代製塩炉遺構移築地の状況（南から）

図版 8 和歌山県瀬戸遺跡第6次発掘調査

- 1 A区出土の遺物
- 2 B区出土の遺物(1)

- 図版 9 和歌山県瀬戸遺跡第 6 次発掘調査
 1 B 区出土の遺物(2) 2 文様細部拡大
- 図版10 和歌山県瀬戸遺跡第 6 次発掘調査
 1 C 区出土の遺物 2 石器
- 図版11 和歌山県瀬戸遺跡第 6 次発掘調査
 各区より出土している軽石

挿 図 目 次

本部構内，共同溝設置にともなう立合調査	図11 B 区南壁の層位……………13
図 1 調査地点の位置…………… 3	図12 C 区平面図……………15
図 2 遺構検出状況概略図と層位模式図…………… 4	図13 C 区北壁の層位……………15
図 3 中世路面の検出状況…………… 4	図14 地区別層序模式図……………16
図 4 近世溝の検出状況…………… 4	図15 A 区出土の遺物……………17
世界測地系座標表示への移行について	図16 B 区出土の遺物（その 1） ……19
図 5 世界測地系国土座標と構内地区割の関係…………… 5	図17 B 区出土の遺物（その 2） ……21
和歌山県瀬戸遺跡の第 6 次発掘調査	図18 C 区出土の遺物……………23
図 6 瀬戸遺跡の位置…………… 7	図19 石器……………25
図 7 瀬戸臨海実験所構内の遺物採集・発掘・試掘・立合調査地点………… 8	図20 瀬戸遺跡における遺物・遺構の確認状況概観……………27
図 8 4・5 次調査区主要遺構と A 区・B 区の位置……………10	浜詰遺跡・北白川追分町遺跡出土土器 付着物の自然科学的分析
図 9 A 区平面図……………10	図21 分析対象遺跡の位置……………47
図10 A 区東壁の層位……………11	図22 分析対象土器……………48
	図23 炭化物の付着状況……………49
	図24 浜詰遺跡土器付着炭化物の較正年代確率分布密度……………53

図25	北白川追分町遺跡土器付着炭化物 の較正年代確率分布密度……………54	図27	較正年代と較正曲線……………55
図26	較正年代確率密度分布……………54	図28	パルミチン酸, ステアリン酸の分 子レベル炭素同位体組成……………58

表 目 次

表 1	瀬戸遺跡に関する発見・調査関連 一覧…………… 9	表 8	推定される較正年代……………51
表 2	放射性炭素年代測定結果……………17	表 9	元素および安定同位体比の分析結 果……………52
表 3	京都大学構内遺跡のおもな調査 ……………32	表10	分析試料一覧……………56
表 4	分析試料……………49	表11	分析装置と標準試料……………57
表 5	前処理の結果……………50	表12	脂質組成……………57
表 6	グラファイト化の結果……………51	表13	パルミチン酸, ステアリン酸の分 子レベル炭素同位体組成……………58
表 7	放射性炭素年代測定の結果……………51		

第 I 部 2020年度京都大学構内遺跡発掘調査報告

第1章 2020年度京都大学構内遺跡調査の概要

第2章 和歌山県瀬戸遺跡の第6次発掘調査

第Ⅱ部 京都大学文学研究科附属文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門紀要Ⅲ

浜詰遺跡・北白川追分町遺跡出土土器付着物の自然科学分析

小林謙一 宮田佳樹 千葉 豊

2022年 2月28日 発行

京都大学構内遺跡調査研究年報
2020年度

編 集 京都大学大学院文学研究科附属
発 行 文化遺産学・人文知連携センター
京大文化遺産調査活用部門
京 都 市 左 京 区 吉 田 本 町

印 刷 三星商事印刷株式会社
製 本 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300